

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100388		
法人名	社会福祉法人山清福祉会		
事業所名	グループホーム ほほ笑み		
所在地	熊本市戸島西5丁目5-26		
自己評価作成日	平成22年12月26日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成23年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>各居室は庭への出入りが自由な掃き出し窓を採用し、共有空間の天窗や菜園と相まって開放感のある建物となっている。また、職員の離職はほとんどないにも関わらず40歳以上の職員は2名しかおらず、設立初期から若手が中核を担ってきた事業所である。 同一法人が運営する保育園との合同行事の開催など、今後も企画でも雰囲気でも「ほほ笑み」らしさを前面に押し出していく。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>熊本市郊外に位置するホームは表通りに商店街があり、また南側には田畑がひろがっており、便利さと田園の雰囲気の両方が楽しめる環境にある。ホーム内は床暖房や可動式浴槽の設置など、ハード面での充実があげられる。若い職員が多いのもこのホームの特徴であり、休憩時間も確保するなど勤務体制の充実もされている。外部研修は目的に応じて必要な職員が出席できるようにも配慮されており、資格取得に対しても積極的である。今後は日々のホーム生活の中で必要な買い物などを楽しみ事支援に組み込んだり、一人ひとりの役割支援などを通じて身体機能低下予防につなげたりすることが期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めて管理者と職員とで作成した理念があり、定期的な職員会議の中で、理念の共有を図っている。	開設当初に職員と共に作成した理念を玄関に掲示したり、毎月のミーティング時に確認を行い理念を意識した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、青少協の会議や地域住民の会合に場所を提供している。また、地域の中学校や保育園との交流事業も実施している。	自治会に加入することで近隣の情報を得ており、清掃活動にも参加している。地域の保育園や中学校の「さわやか支援事業」を通じて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故の報告や入退居の状況報告を主な議題として開催している。	自治会長・老人会会長・町づくり会長・地域包括・家族がメンバーとなって年に2回開催されている。ホームの状況報告の他に外部評価結果をもとに改善項目に関する意見交換を行なわれている。	定期的な開催と討議内容の工夫にも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への包括支援センターの参加、事故発生時の連携はもちろん、必要に応じて市の担当者とも報告・連絡・相談・確認の作業を行っており、市町村と共にサービス向上に取り組む体制を整えている。	必要に応じて情報交換や連絡、相談を行い協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	研修会に参加したり、「身体拘束に関するマニュアル」を作成し具体的な行為等について正しく理解したケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特になし		

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特になし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所の前に一度内容の説明を行い、入所日に再度の説明を行っている。これは、理解と納得を得られるよう十分な時間を確保し、一方的な説明にならないよう留意しているためである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示し、また、管理者も利用者の居室を訪ねて現状の把握に努めている。	面会時の報告や毎月のお手紙で状況を報告している。家族にも運営推進会議への出席を呼びかけ、運営に関する意見を聞いて運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は定期的なミーティングで職員の意見を把握し、改善にむけ早急に対応するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金等の制度の活用はもとより、各自が向上心を持って働けるよう社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修と併せてテキストを活用した内部研修にも取り組み、より専門性の高い介護サービスが提供できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会の出席だけでなく、独自に情報交換に努めている。		

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の見学時や利用申請書提出時に面談の時間を設け、現状とニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	菜園の管理や洗濯物の取り込み、食器洗い等の日常の家事を一緒に行い、本人が介護される一方の立場におかれないう留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特になし		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特になし	家族関係の継続支援に努めている。また入居者知人の訪問も歓迎している。	モニタリングや日頃の会話の中で入居者の希望や行きたい場所などを把握し、家族の協力を得ながら支援する取組みが望まれます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。		

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後にも、病院で行われるカンファレンスに参加して継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって意向や希望を把握している。	家族からの情報収集の他、日常の会話の中から意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集によって、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報や家族からの情報を元に、概ね1ヶ月程度の状況把握期間を経て介護計画を作成している。	家族からの要望や職員の意見をもとに計画作成担当者と主任とでプランを作成している。定期的なモニタリングの実施や状況変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特になし		

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会、地元の中学校を招待した行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に一度の協力医療機関受診を基本としているが、以前に受診していた病院などの受診希望があれば積極的に支援している。	協力医療機関への定期的な受診は職員同行で支援している。以前の医療機関への受診は基本的に家族支援としているが、状況によっては職員で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特になし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院で開催されるカンファレンスには概ね出席しており、退院に向けた調整には積極的に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対しては、医療機関との連携に関する一般的な方針の説明を行っている。	入居時にホームとしての方針を説明している。医療行為が必要になった場合に再度話し合い、最善の支援を行うようしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特になし		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。	入居者も参加して昼夜想定避難訓練を実施している。年1回は消防署の立会いで近隣住民にも参加を呼びかけている。	

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	テキストによる内部研修の機会に、人格の尊重とプライバシーについての教育を徹底している。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心がけ、統一したケアの為にも定期的なミーティングで確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等大まかなスケジュールは用意しているが、レクリエーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は原則的に各利用者が自由に選択したものを着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や食器洗い・お茶汲みなどを入居者と一緒に行っている。	昼食は配食サービスを利用し、朝・夕食は食材のみを配達してもらっている。配膳・下膳・後片付けなど入居者の状況に応じて一緒に行っている。咀嚼能力に応じてミキサーやきざみ食を提供している。	食欲増進や五感の刺激のためにも、食材の買い出しなど職員と一緒に挑戦してみても期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特になし		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きの部分的な介助など、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて時間による誘導やポータブルトイレを活用などの手段を講じ、排泄の自立にむけた支援を行っている。	昼間は声かけ誘導によるトイレでの支援を行っている。夜間は入居者に応じてポータブルやおむつを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特になし		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に応じた入浴支援を行っている。 可動式の浴槽により、多様な入居者に対応できるようになっている。	入居者の希望に応じいつでも対応できる柔軟な入浴支援がされてる。入浴拒否の方にもタイミングや言葉かけに配慮し、汚染時にもその都度対応することで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は基本的に自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、菜園の水撒きなど、趣味や能力に応じた役割を分担し、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩をレクリエーションの一環として実施している。	周辺の散歩や日用品の買物に出かけるよう努めている。ドライブや花見などは全員で出かけている。	

グループホームほほ笑み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一度程度の買い物の機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にでき、多い人は毎日のように家族と話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになった天井や天窗、そして床暖房など、採光や換気に配慮した設計に加え、室内には観葉植物を飾ってある。また、和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。	和室には掘炬燵が設置され、家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう工夫されている。床暖房のため、安全で快適な生活が出来るような配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のある居室やフローリングの居室があり、掃き出し窓から中庭・ウッドデッキ・菜園へ直接出られるように工夫されている。各居室には、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。	居室は掃き出し窓になっており、ウッドデッキからも中庭や菜園に出られるようになっていて出入りが自由にできるようになっている。各居室にはテレビや筆筒・位牌・写真など、一人ひとりの居室作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなどを工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催間隔が長く、不定期である	運営推進会議を年6回の定期開催とする	運営推進会議の構成員に対して、本会議の主旨や意義等についての説明を行い、2ヶ月に1回という頻繁な開催に対してご理解とご協力をいただけるよう努める	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。